

FOCUS・都道府県の統計

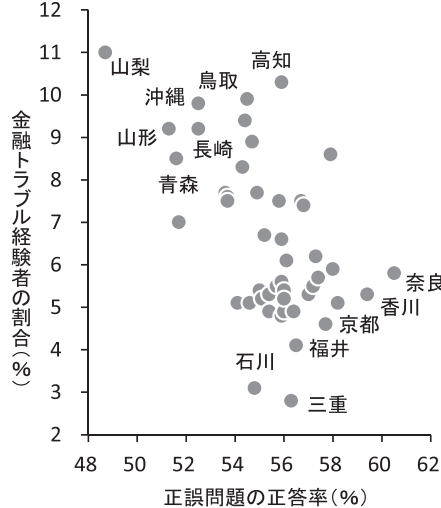
金融リテラシーの高い都道府県はどこ？

人生100年時代、健康寿命とともに資産寿命を延ばしていくことが必要とされ、そのためには国民の金融リテラシーを高めていくことが課題となります。「金融リテラシー調査(2016)」の結果を都道府県別にみると、正答率の上位には奈良県、香川県、岡山県といった貯蓄残高が多い県が並び一方、下位には山梨県、沖縄県がランキングされています。山梨県には「無尽」、沖縄県には「模合」といった古くからある相互扶助の文化が残っており、金融機関に頼らない県民性がこの結果に反映されているのではないかと指摘もされています。また、金融リテラシーが低い都道府県ほど、金融トラブルが多く、緊急時や老後の資金準備ができていないとの望ましくない結果も出ています。今後は官民が協力の上、金融教育を推進し国民の金融リテラシーを高めていく必要があります。

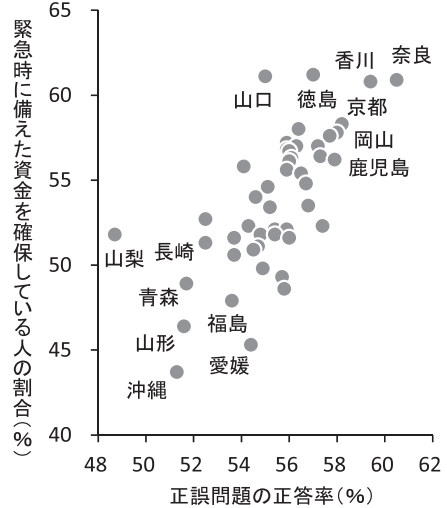
資料1 都道府県別正答率

順位	都道府県	正答率
上位1	奈良県	60.5
上位2	香川県	59.4
上位3	京都府	58.2
上位4	岡山県	58.0
上位5	鹿児島県	57.9
上位6	福井県	57.7
上位7	長野県	57.4
全国平均		55.6
下位7	福島県	53.6
下位5	鳥取県	52.5
下位5	長崎県	52.5
下位4	青森県	51.7
下位3	山形県	51.6
下位2	沖縄県	51.3
下位1	山梨県	48.7

資料2 金融トラブルと金融リテラシー



資料3 緊急時の資金準備と金融リテラシー



(出所)金融広報中央委員会「金融リテラシー調査(2016)」

編集後記

9月、テニスの全米オープンで大坂なおみさんが見事優勝。素人目に見ても本当に強かった。それも憧れでもあり王者セリーナ・ウィリアムズ選手を破っての優勝ということで正にお見事!よくやった!というほかない戦いだった。

ところが勝者を称えるべき優勝セレモニーで事件が起きる。観客席からブーイングが起きたのだ。全米オープンの優勝者にブーイングを浴びせるとはどういうことだ?セリーナファンが多かったのかもしれないが伝統ある4大会の一つ全米オープンですよ。勝者がどこの誰であれフェアに戦って勝った者を称えるのがアメリカじゃないのか。アメリカのスポーツの世界でこんなことが起きたことが非常に残念だった。異様な空気の中大坂さんの見事なスピーチでブーイングが拍手と歓声に変わっていったことには少しほっとした部分はあるが。

トランプ大統領が変えたわけではないだろうがアメリカは変わったということかもしれない。America First、Make America great againを掲げて選挙キャンペーンを戦い、大統領となった後もキャンペーン中と変わらない問題発言も多いが支持率が40%を下回ることはない。経済はすこぶる好調、雇用も拡大とくれば当然ということだろうか。10年前の金融危機の震源地でありながらフリーでフェアで合理的でイノベティブで活力に溢れるアメリカはやっぱり凄い!と思っていたが、そうした社会も変わってしまうのだろうか。

トランプ大統領は9月の国連総会での演説でグローバリズムというイデオロギーを拒否し、愛国心という方針を取り入れるとした。大きなお世話だと思いが大丈夫?アメリカ。(H.S)